

温暖化による雑草の大豆汚損粒発生リスク

農研機構 中央農業研究センター



大豆の収穫時に水分が高い雑草が混入すると、大豆が汚れて(汚損粒)、品質が低下し、大きな問題になります。温暖化によって、雑草の生育量が増加するとともに水分が低下するのが遅れ、汚損粒の発生リスクが増加します。汚損粒発生リスクを評価して汚損粒被害を回避する対策技術を開発しています。

1 温暖化による新たな雑草問題

- 大豆作には、いろいろな外来雑草が侵入していますが、**温暖化**にともなって熱帯原産の雑草も侵入・定着して、問題になっています。
- 雑草の繁茂で大豆の**収量**が**低下**し、収穫不可能なこともあります。
- 大豆収穫期に残っている雑草は、大豆**汚損粒**の発生原因となり、著しく**品質**が**低下**します。
- 本プロジェクトでは温暖化による汚損粒発生リスク評価法を開発し、汚損粒の被害を回避するための対策技術を開発しています。



大豆をおおう熱帯原産の外来アサガオ(マルバルコウ)

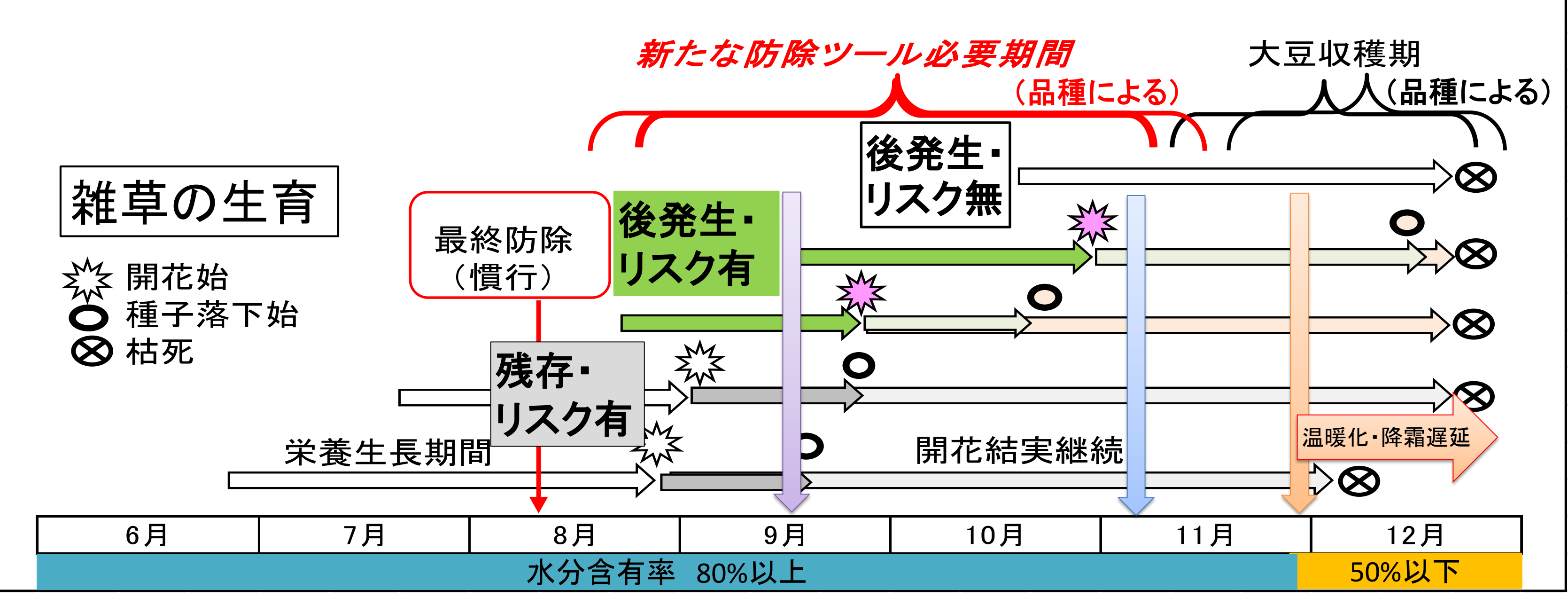


大豆収穫期に青々としているニシキアオイ



汚損粒 正常粒

3 雑草による汚損粒発生リスクに基づく対策技術開発



薬剤A(グリホサートカリウム塩(タッチダウンiQ))の処理状況→

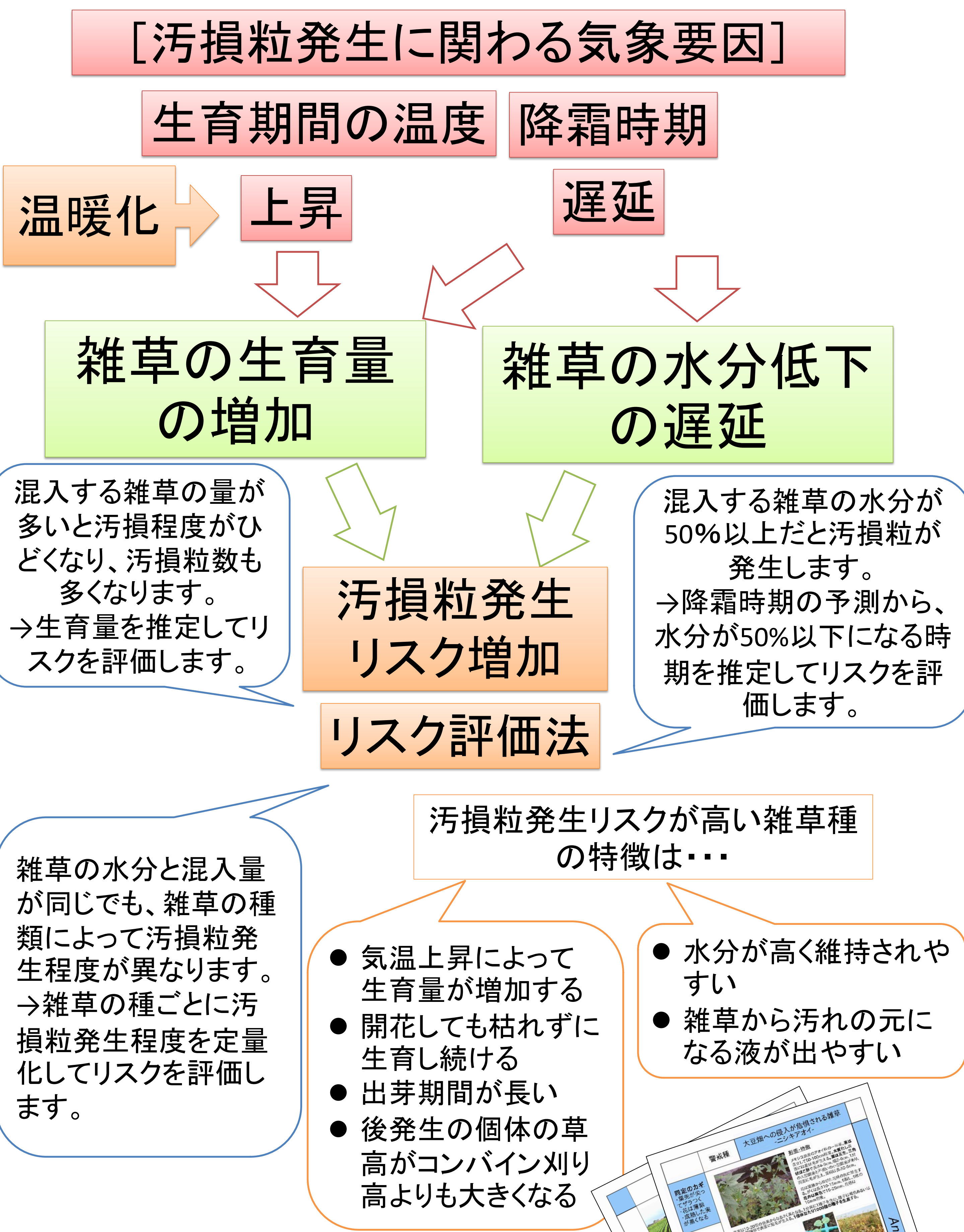
薬剤A
防除タイミング
(収穫28日前迄)

薬剤B
防除タイミング
(大豆落葉期
収穫14日前迄)

霜などによって枯死→
水分50%以下
(リスク無)

汚損粒被害を回避するため、最適な防除タイミングを明らかにし、温暖化にも対応できる対策技術を開発しています。

2 温暖化による汚損粒研究のポイント



● 普及・社会実装への道筋

- 汚損粒発生リスクの高い警戒すべき雑草の情報を公表します。
- 温暖化による汚損粒発生リスクが高い雑草について防除技術を開発し、マニュアルとして公表します。

